

## オープンイノベーションを捉える知財戦略の転換

—新たな“知の囲い込み”競争をどう勝ち抜くか—

経済ジャーナリスト 岸宣仁氏

IV (インテレクチュアルベンチャーズ) は、インベンションキャピタル (発明資本) という新しいコンセプトを提唱し、知的財産に投資をして利回りを得る投資活動を展開している。元マイクロソフト、インテルの幹部4人で創業し、その後もノーベル賞級の学者、科学者をヘッドハンティングし、注目を浴びてきた。一方で、そういう彼らを、結局は、パテント・トロール (特許ゴロ) ではないかと怪しむ産業界の視線も存在している。

彼らが掲げる具体的な業務内容は、

### インベストメント (特許購入とライセンス) :

すでに権利化された特許を買い取り、企業などにライセンスして特許使用料を得る。

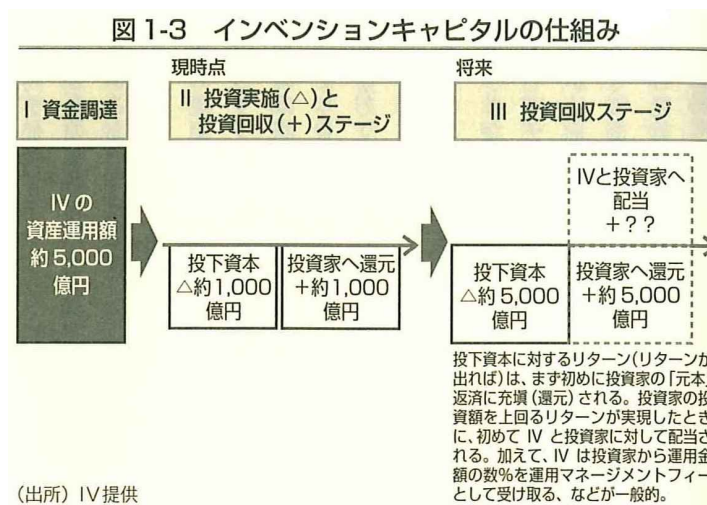
### ファクトリー (発明・特許出願) :

社内のスタッフだけでなく、社外の発明家とともに共同して発明を創造、特許出願して権利化する。

### ディベロップメント (発明・特許の評価と出願支援) :

大学、研究機関、企業の研究者とパートナー契約を結び、彼らの発明や特許の市場性を評価し、社内の専門家が出願をサポートする。

以上の業務内容は、技術に関する相当の目利きでないと成立し得ないと思うが、インベンションキャピタル (発明資本) の仕組みを彼らは以下のようにモデル化して説明している。



講師提供資料より